

シリコンバレー・台湾と京都を結ぶ ネットワーク形成を強化

海外とのネットワークの強化を目指すKRP(株)の取り組みを紹介。今回は、ベンチャー企業の活動が盛んなシリコンバレーと海外企業誘致や投資に熱心な台湾にて、京都リサーチパーク地区の活動PRをすべく各地のベンチャーキャピタルやリサーチパークを訪問した。



InvestTaiwan Service Centerにて

REPORT 1

京都＝シリコンバレー？ 京都の魅力と企業をシリコンバレーの起業支援家にPR

去る2月6日、シリコンバレーのインキュベータであるNestGSVにて、"Japanese incubation & Innovation Ecosystem"が開催された。現地にてKRP(株)の活動報告をするとともに、京都のベンチャー企業と、米国シリコンバレーの起業支援家の橋渡しをするため、現地とKRP町家スタジオをテレビ会議でつなぎプレゼンテーションを行った。参加企業は、2012年のテクノロジー & ビジネスプランコンテストの入賞者、グリーンロードモータース(株)、design studio "PENCIL"、(株)ミルテルの3社と京都を拠点とするコネクトフリー(株)。はじめに、コネクトフリー(株)CEOの

クリストファー・テイト氏が「イノベーションのまち～京都」を紹介した。町家スタジオの佇まいも功を奏し、シリコンバレー側の大きな興味を引いた。シリコンバレーでも起業経験があるテイト氏は「京都は日本のイノベーションの流れを作る場所であり、シリコンバレーを超えうる面白い潜在力があるとアピールしたかった」と、イントロの意図を明かした。パノラマ写真によるコンテンツを提案するdesign studio "PENCIL"の二宮章氏は「テレビ会議という制約もあったが、先方の雰囲気がかめてよかった」と話した。また、JETROの現地駐在員から進出を呼びかけられたことも自社の技術

への自信になったと感想を述べた。

KRP(株)では、今回のように現地で京都の企業を紹介する機会をはじめ、ASPと合同マッチングイベントなど、海外進出を考える企業への支援を行う仕組み作りとして今後も海外の起業支援家や公的機関とのネットワークを強化していく予定だ。



KRP町家スタジオにて テイト氏、二宮氏

REPORT 2

アジア進出は台湾から。台湾の最新情報に触れる視察ツアー実施



上: 福竹 康志氏
下: 高雄デジタルコンテンツセンターにて

アジア進出を狙う日本企業において、事業展開の足掛かりとなる国として注目される台湾。その現状を把握するべく、3月17日(日)～21日(木)の日程で台湾視察ツアーを実施した。

KRP地区入居企業であり、2011年に台湾・高雄市に進出を遂げた(有)京都情報化支援事務所を訪問し、取締役所長の福竹康志氏と共に高雄ソフトウェアパーク、高雄市政府、高雄デジタルコンテンツセンターと高雄金属加工研究センター、駁二芸術特区、新竹サイエンスパーク等を視察。施設見学や政府関係者とのミーティングを通して台湾の今を肌で感じとれる、大変有意義なツアーとなった。福竹氏は、「台湾は街の発展も人の動きも、とにかくダイナミック。インフラ整備等が

急速に進む反面、せっかく培った人脈を失うこともあった」と話す。しかし、日本人と非常に近いマインドや技術を持つ人々、低い物価など、進出しやすい要素は間違いなくあると確信する。

「日本人は計画的で緻密。台湾の人たちはオープンマインドで、チャレンジャー。ちょうど裏表の関係なので、うまく補完し合えばパートナーとしては最適」とも。

福竹氏が台湾に進出するきっかけとなったのが、2011年にKRPで開催された「日台ビジネス合同会議in京都」。また、今回のツアーで台湾との関係が更に深まりつつあることもあり、福竹氏は「台湾側からも期待されている。ぜひ次に繋げてほしい」と、今後の企業交流や進出への期待を示した。